



会報 No.144 令和3年7月号

会長就任挨拶

桑都保育園 石井 淳

令和3年度八王子市私立保育園協会の総会におきまして、宮崎前会長の後を受け会長に就任させていただきました。前々会長の齊藤先生、そして前会長の宮崎先生に続いての会長ということで、いささか力不足ではありますが、役員および会員園の皆さまからご協力をいただき、八王子市私立保育園協会の会員園および八王子市の子ども達のために尽力して参ります。

協会の会員園数は増加を続け、84園までになりました。施設の種別も認可保育園のみならず保育園型認定こども園、幼保連型認定こども園、小規模保育と多様化してきました。昭和40年に発足した園長会から昭和61年には保育園協会となり、平成29年には一般法人化し事務局を抱えるまでに変革を重ねてきました。しかし、一般法人化したことにより、定款と運営規程とに齟齬があることから是正する必用が生じています。今後、定款との整合性を確認しつつ運営規程の改正に取り組んでいきたいと思っております。また、役員数も34名と大人数となり特定の部や委員会においては役員の負担を無視できないほどに高まってきています。役員数と事業内容については、今後会員園の皆さんと時間を掛けて検討すべき重要事項であると考えております。組織がここまで大きくなったため、役員ではない園が役員会等の情報を得たり、意見を言うことが難しくなってしまった実態があります。ブロック会を利用して情報伝達や意見集約をすることを検討していきたいと思っております。

八王子市が中核市になったことで、これまで以上に市と協会との関係を強化していく必要があります。この度のコロナ禍の中、保育園等にワクチンの優先接種を行ったように、市から保育園に対して支援を頂いております。引き続き良好な関係を保ちつつ保育政策会議を通じて八王子市の保育政策に関わって行きたいと思っております。喫緊の課題を解決するのみならず八王子市の子どもと保育園等のために、今後問題となってくる認定こども園化や公設民営園のあり方について協議していく必要があります。

国の動向としては、社会福祉施設職員等退職共済制度における保育所等に対する公費助成のあり方が検討されています。今後公費助成を継続しつつ、公費助成のあり方について令和6年度までに結論を得ることになっています。公費助成がなくなると掛金は現在の3倍になり、運営にも大きな負担となるので、今後注視していく必要があります。また、文部科学省による施設類型を超えた共通プログラムである「5歳児の教育プログラム」の検討が始まっており、今後、小学校との連携、接続のあり方を再検討する必要があると見られます。

私事にはなりますが、平成13年に園長職について依頼、協会の先輩方からは、保育園について一から手ほどきを受けてきました。教えていただける先輩と相談できる仲間の存在がどれほど有り難かったか、今日園長を続けられているのは協会の存在があったからと言っても過言ではありません。この度会長をお引き受けすることとなりましたが、これまで協会と先輩方から受けたご恩を少しでも返せるように、協会の会員園、そして新たに園長の世界に足を踏み入れた先生方の抛り所となれるよう努めていきたいと思っております。

皆様からのご指導とご協力をいただきながら、会長職を務めて参りたいと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人 八王子市私立保育園協会

リモート 定期総会報告

令和3年6月9日(水)

司会 滝澤先生より午後2時に開会の言葉がありました。

出席者70園、欠席14園のうち委任状14園。会則第12条に基づき、会員総数84園のうち84園の出席及び委任状をもって過半数に達しましたので、本日の総会は成立となります。

開会のご挨拶を宮崎会長より、本日はお忙しい中総会にご出席いただき有難うございます。

本来、議長、副議長を選出して総会を進めるところですが、今回はリモート会議で行う為、リモートに詳しい滝澤先生に議事進行していただきます。これから一般社団法人八王子市私立保育園協会定期総会を開会致します。

滝澤先生が司会進行して下さり、第1号議案～第3号議案まで承認され、リモート会議ですので画面に採決票が提示され承認・不承認を選ぶ方式でした。役員改選で、新しい会長に桑都保育園、石井先生が選ばれ、副会長に山下先生、秦先生、折井先生が選ばれました。

会計を長年担当して下さった秦先生が副会長になりましたので会計には、ひなた保育園、井上兄先生が選ばれました。先生方、ご活躍を願っています。

新任園長先生を紹介しました。

光明第三保育園	杉本 幸子先生
由井さゆり学園	竹内 良美先生
山田保育園	下川 優子先生
白百合第二ベビーホーム	山口智恵子先生
なみのり保育園	石井 博子先生

やまと第一保育園	花村 宏司先生
みなみ野さゆり学園	谷合 悦子先生
八王子市立多賀保育園	佐久間祥子先生
八王子市立石川保育園	高瀬佑三子先生

以上の9名になります。

昨年度は、永年勤続表彰の表彰者を紹介できなかったため、令和3年度に紹介しました。

表彰者は7名、昨年度4名、今年度3名でした。

大塚保育園	小島みさ子先生	35年
城山保育園	木下 喜美先生	31年
大塚保育園	松本由美子先生	28年8か月
さつき保育園	内田 淳子先生	28年
さつき保育園	野田小枝子先生	22年
横川保育園	野地あゆみ先生	21年
敬愛クレヨン保育園	高橋 幸一先生	20年

9名の先生方おめでとうございます。

閉会の言葉を光宗副会長より、本日はリモート会議でしたが無事終わることができて感謝申し上げます。宮崎先生3期6年会長職をご苦労様でした。保育業界に入って36年がたち、様々な歴代会長の方々の時に事務局長を務めてまいりました。その時から残っているのは、斎藤先生、宮崎先生と私だけになってしまいました。新体制の若い力で頑張ってください。また、何か相談事がありましたら、いつでも相談して下さい。ありがとうございます。

宮崎先生、光宗先生長い間ご苦労様です。顧問としての相談事が多々あると思いますが、宜しくお願ひします。有難うございました。(落合)

シリーズ 私の保育園

敬愛高倉保育園

園長 塚本千鶴

昭和49年11月9日、都営住宅高倉町アパートの1階に創設致しました。八王子市からの依頼を受け、当時は珍しいのですが公設民営の認可保育所として、敬愛学園で2番目の保育園が誕生致しました。

全ての根底にあるものは敬愛学園理念の『人を敬いすべてのものを愛しむ敬愛の精神に基づき 真に価値ある 福祉・教育・文化・社会を創造します』

敬愛保育理念の『人を敬いすべてのものを愛しむ敬愛の精神に基づき 児童の^{いま}現在と未来の幸せのために 一人ひとりの人格を尊重した 最善の保育をします』

に基づき、お子さまの主体性を尊重し、温かい保育・豊かな保育・学び合い育ちゆく保育を日々模索しながら進めております。

保護者の皆様や地域の方にご理解ご協力をいただきながら、信頼を築いてまいりました。

そして46年の月日を経て、園舎の老朽化に伴い、昨年の令和2年4月に、新園舎を建設し移転致しました。旧園舎の目の前で、以前は畑としてお借りしていた土地を奇跡的に購入することができましたので、保護者の方の利便性やお子さまの保育に支障なく、建設を進めることができました。新しい建物が出来上がっていく様子を、みんなで楽しみに見守りながら過ごすことができたことは、何よりの幸せでした。

新型コロナウイルス感染症の脅威の中、令和3年、2年目の保育がスタートしました。感染予防に努めながらも「お子さまの学びを・成長を止めてはいけ



ない」と試行錯誤しながらですが、職員もお子さまも新しい園舎に慣れ、豊かな環境で過ごせることへの感謝の気持ちで笑顔が溢れています。

お子さまが幸せに生きる力を育むために、より豊かな経験を重ねていくことができるように様々な保育の工夫をしております。

主体的に活動したり、自らの発見を楽しみ、夢になって探求し、学びに向かう気持ちが育まれるような環境を整えています。保育室だけでなく、ピロティやエントランス、廊下、園庭など至るところに、お子さまの興味関心を引くような魅力的なエッセンスを散りばめ、誰が興味関心を持って、遊びに取り入れるか、探求していくか、職員もわくわくしています。

お子さまは、発見した喜びや出来た喜びを、お友だちや職員と共有しながら、「もっとしらべてみたい!」「つくってみたい!」「やってみたい!」と毎日心躍らせている姿がなんとも可愛らしいです。そして、毎日ドキュメンテーションを作成し、お子さまの感じたり考えたりしながら探求している様子、遊びが展開がされていく様子、創造力を最大限に膨らませ自らの表現を存分に楽しんでいる様子などをお子さまと振り返ったり、保護者の皆様に伝えたりしています。感動のエピソードを共有することで、一人ひとりのお子さまの素晴らしさ、成長の喜びや保育の楽しさを職員も感じている日々です。これを置いてみたら、こんな反応があった!こんな思いもよらない展開になった!こんな成長があった!と目を輝かせている職員との会話が、私の至福のひと時です。



せいがの森こども園

園長 筒井 正人

せいがの森こども園は、新しいニュータウンに集った人たちを結ぶ場所・地域コミュニティーの結節点としての保育園という理念の下、平成9年に開園、平成29年に保育所型認定こども園に改組しました。地域に開かれた園という思いを形にした、玄関から靴を履いたまま園舎内をスルーして園庭に抜けられるアプローチとそこから見える園庭の風景は開園当時のまま。園庭の桜の向こうには長池公園や浄瑠璃緑地の緑が連綿と続いています。

一昨年度の末からコロナと向き合い行事や活動を見直す中で、こうした環境にはとても助けられました。バスで市民農園に行っていたおいもほりは、園庭での苗植えからの自力栽培に。栽培から自分たちでやっていると、多少収穫が少なくても楽しさは減りません。根腐れも多く株が足りなくなり、最後は4人で1株を掘るようになってしまいましたが、子どもたちは4人で協力することをむしろ積極的に楽しんでくれました。

遠出のバス遠足の代替は、近隣公園を歩きつくす歩き遠足や、ネイチャーセンターの方にご協力をい



ただきながらの長池公園の自然探検に。下見や計画を重ねながら実施しているうちに、改めて地域の魅力と懐の深さに気づきました。

しかし、人と人とを結ぶという意味では、今なおとても困った事態が続いています。お帰り時には、ゆっくりと子どもと同じ景色を眺めてその日1日の話をする。行事の日にはたくさんのご家庭が顔を合わせいっしょに楽しむ。園庭で地域のご家庭につながりができる…。人と人が園でかかわる、まったりとした時間が失われています。今までふつうにやってきたことがこんなに難しくなるとは…。

保育参観の代替の動画配信などいろいろな対策を講じ、登園自粛や休園といった厳しい事態も経験した今改めて思うのは、人と人が安心して共にすごせる時間と場所、つまり園の「いま」と「ここ」がいかに貴重で、かけがえのないものだったのかということです。

大変な日々はまだまだ続きそうなので、これからもっと、子どもたちの経験を保障するためにどんな工夫が必要なのか考えていかななくてはなりません。協会園の先生方のご指導をいただきながら、子どもたちを温かく見守っていききたいと思います。

編集後記

2020東京オリンピックについて、一昨年から世界的なパンデミックとなっている新型コロナウイルスの流行と重なり開催するか否か？観客は？と注目されていましたが、無観客での開催が決まりました。

今からほぼ100年前の第7回アントワープ大会もスペイン風邪の流行の最中の大会だったとのこと。これも流行の拡大が顕著であったヨーロッパということも今では謎とされています。今大会一年遅れの異例開催ですが、世界からはどう映るのでしょうか。選手の皆さんの活躍を楽しみにしています。 (梅野)